

梅雨に入り、天気も落ち着かない6月に、森の学校第2回を開催しました。

今回は、11家族36名がご参加。

テーマは「土を作る生物」～土壌生物を観察する～です。

講師に土壌生物研究家・自然写真家の皆越 ようせいさんを迎えて土壌生物の世界を探検です。



講師の皆越先生

まずは、皆越先生の撮影した土壌生物の紹介から。

土壌生物で一番先に思いつくのは・・・ミミズ、ダンゴムシなどでしょうか。

実は、目に見えない小さな生物もたくさんいるのです。



線虫



クマムシ

野菜や花を育てている方には嫌われ者の線虫と、不死身の体を持つと言われるクマムシです。

体長は約1.7mm以下の土壌生物。

気持ち悪～いと言われますが、この土壌生物がいなければ、自然界は分解されないゴミだらけになってしまうのです。

植物や落ち葉、枯れ木などはこの土壌生物が食べることで分解され、排泄されることで豊かな土に変化する、まさに「緑の下の力持ち」です。

仲間はまだまいます。



丸くてかわいいのと、赤くてきれいな「ダニ」です。

このダニは、人に噛み付くダニではなく落ち葉などの植物を食料とする種類。

やはり1mm以下の土壌生物です。

その土壌生物を食べる土壌生物もいます。



それがこの「カニムシ」。

見た目のせいか、こどもたちには人気のある土壌生物です。

そしておなじみのダンゴムシも。



左の丸まっている写真ですが、小さいほうは幼虫ではなく、在来種の「コシビロダンゴムシ」だそうです。

よくみかける大きなダンゴムシは「オカダンゴムシ」で外来種とのこと。初めて知りました。

右側はダンゴムシの脱皮の様子で、頭側とおしり側にわかれ、時間をかけて脱ぐそうです。

土壌生物の世界を冒険したら、午後からはいよいよ土壌生物に会いに行きます。
午前中に降り続いた雨もお昼には止み、スコップを片手に出発！



土を少し掘り起こすとミミズが出てきました。
探し方のコツなどを皆越先生から説明を受けると、みんなそれぞれに場所を決めて採取を開始。



何が見つかったかな？

もっと小さな土壌生物は土を採取してシートなどの上にふるいをかけると・・・発見！



トビムシなどが見付き、中には珍しい種類の土壌生物も・・・。
普段は気にも止めずに歩く土にもたくさんの土壌生物がいることを知りました。
そして、多くの生き物に支えられながら、人間も自然の一部として生きていることでダンゴムシに対しての嫌悪感がなくなった(?)ような気がしました。
次回は、7月9日・10日開催でテーマは「森の昆虫たち」です。お楽しみに！！